

1 はじめに

昨年度に続き、今年度も新型コロナウイルス感染症による休校や行事等の中止を余儀なくされることがあった。そのような状況において、本校の特別活動部では、これまでの実践を見直しながら、望ましい集団活動や児童の自主的・実践的な活動の在り方を模索してきた。特に児童会活動の中心となる計画委員会においては、本校の課題解決や学校の活性化を図るための手立てについて話し合い、実践を行ってきた。

2 実践例

今年度の計画委員会では、「スーパー元気にここ学校にしよう」というスローガンを立てた。「コロナ禍で活動が制限され、残念な思いをすることの多かった日々の中で、楽しく前向きな学校生活にしていきたい」という願いが込められている。

以下その実践例を紹介する。

(1) いじめをなくすための取組「いじめゼロ宣言」

学校が楽しく安心できる環境であるために、いじめのない環境をつくっていくための実践目標をクラスで考え、昇降口に掲示した。掲示することで、一人一人の意識を高めるとともに、学校全体として、「いじめを許さない」という雰囲気高められた。



「いじめゼロ宣言」の掲示物

(2) 異学年による交流遊び

「学年関係なく仲がよい」という小規模校のよさを生かしながら、楽しい学校生活を味わえるようにするために、異学年（2つの学年）による交流遊びを行った。下級生にとっては、上級生に温かく接してもらうことで「学校が楽しい」と感じることができ、上級生にとっては、思いやりの心や上級生としての自覚を高めることができる取組である。



異学年による交流遊び

(3) 運動会実行委員の活動

今年度、2年ぶりに開催された運動会においては、6年生を中心に運動会実行委員を立ち上げ、スローガンや児童代表の言葉の作成など、運動会の計画・運営を行った。6年生が主体的に取り組むことによって、「自分たちが作り上げた運動会」という思いをもつとともに、最高学年としての自覚を高めることができた。

3 成果と課題

児童はこのコロナ渦の状況において、学校で過ごしたり、友達と触れ合ったりする時間の大切さを改めて感じている。これらの活動を通して、学校全体の温かな雰囲気をつくるとともに、学校生活のよさや楽しさを味わうことができたのではないかと考える。新型コロナウイルスの感染状況によって、できることがその都度変わる難しさはあるが、児童が主体的に活動することを基本として、児童の所属感や自己肯定感を高められるような取組について考えていきたい。